

5. 各種調査から明らかになった課題

課題1	地域間連携による生活圏を結ぶ交通ネットワークの確保
【第3章：P28, P33, P34, P65】 <ul style="list-style-type: none">・ 本地域の生活圏は南空知地域だけでなく、さっぽろ連携中枢都市圏等の隣接地域も含まれており、とりわけ通学においては高等学校を町内に有していない自治体があるため、通学を含めた住民の生活を維持するために、これら圏域との交通ネットワークを確保し続ける必要があります。・ また、自宅から広域交通にアクセスする利便性を確保するために、交通結節点の整備やダイヤ調整による接続の強化などを図る必要があります。	
課題2	利用状況やニーズに即した移動手段の確保
【第3章：P40, P46, P47, P55】 【第4章：P68, P71～P107】 <ul style="list-style-type: none">・ 人口減少や新型コロナウイルス感染症に伴う需要の減少等による収支の悪化、高齢化などによる運転手不足の問題が深刻化しており、交通事業者は路線規模の縮小や撤退を余儀なくされている状況です。・ このため、路線バスとして運行を継続させていく区間と、運行形態を変化させつつ移動手段を確保する区間を明確化するなど、利用状況やニーズに即した移動手段の確保が必要となっています。	
課題3	公共交通の担い手の確保
【第3章：P46, P55】 <ul style="list-style-type: none">・ 運転手不足や運転手の高齢化が深刻化しており、交通事業者においては、今後、現状のサービス水準の公共交通を維持できない状況が発生する可能性があります。・ 交通事業者単独での担い手確保には限界が生じていることが想定されるため、関係者間で連携して必要なサービス水準の確保に向けた人材確保に取り組む必要があります。	
課題4	公共交通の利用促進
【第4章：P24, P25, P35, P67】 <ul style="list-style-type: none">・ 本地域の住民の多くは自家用車を主な移動手段としており、日常的に公共交通を利用している住民は主に通学世代や運転免許・自動車を持たない方などとなっています。・ 今後も人口減少の進行に伴い、利用者の減少が続くことが想定されるため、現在の利用者に対しての移動支援を継続しながら、新規利用者の増加に向け、公共交通利用のハードルが緩和されるような広報活動や利便性の向上など、多角的な検討も重要です。	